第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（実践報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	在宅療養後方支援病院として、地元医師会と協同して立ち上げた在宅患者登録制度は、非常に需要が高かった
演者名	廣橋猛 1） 結城秀樹 2） 中野邦夫 3）
所属	永寿総合病院緩和ケア科 1） 永寿総合病院総合内科 2）3） 永寿総合病院地域医療連携室 1）2）3）

目的

永寿総合病院は東京都台東区に位置する地域中核病院であり、地域包括ケアにおいて在宅医療を支援する立場から、2014 年度診療報酬改定で新設された在宅療養後方支援病院に指定された。事前登録した在宅療養患者の緊急時対応を約束するものである。当院の在宅患者登録制度は、訪問診療を行っている地元医師会と最初から協議を重ねて作られたものであり、その立ち上げから本格起動までの経緯を報告する。

実践内容

2014 年 4 月の指定と同時に、地元 2 医師会に属する 5 つの診療所医師と協議を開始した。患者登録に必要な申請用紙、患者診療情報用紙を用意し、5 つの診療所が診ている在宅患者限定で登録を開始した（試験期間）。試験期間中には 2 回協議の場を設け、登録手続きや患者情報に不足がないか、また実際に緊急時に適切に運用されるかどうかを検証した。

実践効果

試験期間の 2014 年 9 月までの間に、60 名以上の患者登録があり、実際に 4 件の緊急入院が発生した。在宅主治医の介さないところで緊急受診に至った事例が 1 例、また原疾患の治療方針が曖昧な事例の登録があった。登録時の基準、緊急受診時の手順等を再度調整し、2014 年 10 月より地元 2 医師会全会員（台東区全域）を対象に登録を開始した。開始時に行った事前説明会には訪問医・訪問看護師など 80 名を超える参加者があった。

考察

在宅療養後方支援病院が行う在宅患者事前登録制度は、在宅で療養する患者・家族だけでなく、訪問診療を担う地元医師会や訪問看護師にとって非常に需要の高いものであった。そして在宅の主治医である地元医師会の訪問医と協同して作り上げたシステムにより、万全の体制で運用を開始することができた。本発表では本格登録開始後の動向も交えて報告する。